

涙で新しいスタート 卒業おめでとう ～市内小・中学校で卒業式～

3月12日（金）に中学校で、25日（木）に小学校でそれぞれ卒業式が行われ、児童生徒が母校に別れを告げました。4月に荒尾一中と統合した荒尾第二中学校では、64人が最後の卒業生となり、涙と歌声で別れを惜しみました。17人が卒業した清里小学校では、名前を呼ばれた卒業生全員が、将来の夢を大きな声で述べ、巣立っていききました。市内では今年、小学校486人、中学校478人が卒業し、人生の新たなステージに踏み出しました。

▶ 1 二中の様子。思い出がしみ上げ、歌声も涙ぐまろ
2 清里小の様子。卒業生が思いを込めた合奏でお別れ



桜咲く、安らぎの里山をめざして ～屋形山植樹事業 桜の植樹～

3月14日（日）、屋形山で、地域の人などおよそ50人が参加して桜の植樹が行われました。前日の雨で足元が悪い中でしたが、30本のソメイヨシノの苗木が屋形山頂上付近の南斜面に植えられました。参加者は互いに協力しながら、数年後に桜の名所となることを願って丁寧に苗木を植えていました。

また、昨年植えられた道沿いの桜が根付き、順調に育成していることも確認されました。屋形山への桜の植樹は、来年も行われる予定です。

▶ 1 竹田久生さん・恭子さん・愛子さん（6カ月）一家（東屋形）。愛子さんと桜の成長に思いを馳せて植樹
みなさん。背後斜面に植樹した。桜の花で埋まるのが楽しみ



日々の稽古の成果が見事な歌声に ～市民文化祭 荒尾市民謡協会発表会～

3月14日（日）、文化センターで民謡協会発表会が開催されました。平成21年度の市民文化祭の最後を飾るステージで、大人から子どもまで民謡を学ぶ人が多数出演し、日頃の練習の成果を披露しました。観覧者は見事な歌声に、大きな拍手を送っていました。民謡のほかにも日舞やフラダンス、津軽三味線などの賛助出演や、特別ゲストとして黒田節を披露した前畑淳治市長の出演も花を添え、会場を沸かせました。

▶ フィナーレの「九州炭坑節」。炭坑のまちである荒尾の文化が花開いた舞台を華麗に締めくくった



創意工夫と人の熱意が生む「郷土の名酒」 ～荒尾発芋焼酎「びほう小袋」新酒が発売～



▲「金山の土は赤土で、とてもいいイモが採れます」前回生産したときよりも今回のほうが大きなイモが多く良いものが採れたと、とても嬉しそうに語ってくれた松永さん

3月28日（日）、あらおシテイモール出合いの広場で、焼酎「びほう小袋」の新酒発表会が行われました。市の地域再生事業の一環として、荒尾産のサツマイモを使って作られている芋焼酎「小袋」ですが、今回の「びほう小袋」は、市が進めている「市民協働」の創意工夫が更に加わった一品になりました。

まず焼酎の味の原点となるサツマイモ。これは松永時男さん（平山／写真1）が金山にある畑で生産した「紅アズマ」。「甘みは少ないですが栗のような味わいで、ほかのサツマイモと違い、熟成させなくても掘つてすぐに食べられる美味しいイモです。今回はいい出来でした」と晴れやかに語りました。

イモの育成には有明高等工業専門学校（福岡県大牟田市）の氷室昭三博士らが開発した40マイクロメートル以下の気泡が溶けている特殊な「マイクロバブル水」を使ったそう、通常より育成が少し早まったそうです。

この「マイクロバブル水」は焼酎の仕込み水と和水（原酒を割る水。割水とも）にも使われていて、荒尾・玉名地域で唯一の酒蔵である花の香酒造（和水町）が醸造し

ました。社長の神田優子さん（写真2）は「イモは肌質もよく、とても良質でした。マイクロバブル水を使うと、いつそう旨みを感じる」ことが分かっていて、焼酎もまろやかさが感じられるようになります」と語りました。



▶会場は大変な賑わい。屋時の食品パザールのテント前には行列ができ、テント内は大忙し

満開の桜の下で楽しむ地域のふれあい ～第2回 中桜祭 開催～

暖かな陽気に恵まれた3月28日（日）、野外音楽堂でよかまち中央会（松井忠憲会長）主催で中桜祭が開催されました。

前日までにボランティアで清掃された会場では、チア・リーディングや演奏などのステージイベント、食品パザールやフリーマーケットなどが行われ、家族連れなど地域の人およそ千人が参加しました。

訪れた人は満開の桜に囲まれた会場で、花・味覚・ステージを楽しみ、交流を深めていました。